

手の機能評価表改訂版（第4版）序

1993年に初版となった手の機能評価表は、1998年4月に第3版が出された。この第3版機能評価表は、1群：評価基準が確立されたもの（腱損傷、末梢神経損傷 [障害]、再接着手・指および複合損傷手、手関節障害）、2群：参考となる評価基準を含むもの（切断 [欠損] 手、知覚脱失手、母指多指症など4項目）、3群：症例記録にとどまるもの（骨・関節損傷など6項目）の、3群に分類された。しかし、実際には、1群に属する機能評価表でさえも、海外雑誌への投稿には向かないとか、障害程度 (impairment) のみの評価で患者サイドからみたいいわゆる disability が評価されていないなどの理由で、ほとんど利用されていないのが現実であった。

平成10年度からの改訂作業は、まずアカデミックに通用する日手会の評価基準を作るということを目標に、腱損傷、末梢神経損傷、再接着手・指および複合損傷手、手関節障害それぞれの機能評価基準を、いくつかの代表的な欧米評価基準の特徴と比較検討することから始めた。

しかし、患者立脚型アウトカムの指標としてのQOL評価表の重要性が高まってきたこともあり、アメリカ整形外科学会により開発されたDASH (The Disability of the ARM, SHOULDER AND HAND: 上肢障害評価表) の日本語版の開発に入ったため、本来の改訂作業が遅れることになった。日本語版DASHの作成並びにこの日本語版DASH最終versionの検証作業後、2回の申請を経て、DASH the JSSH version が2004年に無事認可され、さらに the QuickDASH the JSSH version も2005年に認められ、DASHのwebsite (<http://www.dash.iwh.on.ca/>) に両者が掲載されている。これによって、日手会の機能評価表が主としてROM、筋力評価、知覚検査などいわゆる impairment のみのものであったのに対し、患者サイドからみた評価が可能になった。

さらに2005年、機能評価委員会は疾患特異的QOL評価表の一つである手根管症候群質問票 (CTSI, Levine et al. 1993) の日手会版を開発し、本誌に掲載した。これら3つのQOL評価表 (DASH¹⁾, QuickDASH²⁾, CTSI^{3,4)} の妥当性が検証済みであることは重要な点である。多くの機能評価委員会の諸先生方 (下記参照) にご協力をいただき、この場でお礼を申し上げたい。

今回の改訂版では、腱損傷、末梢神経損傷 (手根管症候群の評価表と質問表日手会版)、再接着手・指および複合損傷手 (新たな日手会版を作成)、手関節障害それぞれの機能評価基準を刷新した。さらに日手会先天異常委員会作成の母指多指症の術後機能表を掲載した。また、Web site で利用できることを考慮し見易く使い易い様に2色刷りとし、pdfファイルの形でダウンロードできるようにした。

なお、手の機能評価表を使用するにあたっては、個人情報保護法施行に対応するため、「診療以外に用いる場合は、個人を特定できない形にする」ことに注意して頂きたい。具体的にはカルテ No (ID) や氏名の欄は連結可能匿名化をおこない、その対応表と別々に保存するなどの配慮が必要である。

今後、この機能評価表が評価基準として会員に使用され、また国際的にも受け入れられるようになるよう、委員会のさらなる努力が必要である。会員の皆様にまず使用してもらい検証していただくことを期待する。

2006年3月8日

日本手の外科学会機能評価委員会
担当理事 藤 哲
委員長 今枝 敏彦

この改訂版作成に携わった委員会のメンバー（敬称略）

平成10年度	担当理事	中村 蓼吾	顧問	平澤 泰介	
	委員長	藤 哲			
	委員	石田 治, 勝見 泰和, 中土 幸男, 村上 恒二, 柳原 泰			
平成11年度	担当理事	中村 蓼吾			
	委員長	藤 哲			
	委員	石田 治, 勝見 泰和, 中土 幸男, 村上 恒二, 柳原 泰			
平成12年度	担当理事	長野 昭			
	委員長	藤 哲			
	委員	仲尾 保志, 中土 幸男, 平田 仁, 柳原 泰			
平成13年度	担当理事	長野 昭	アドバイザー	藤 哲	
	委員長	仲尾 保志			
	委員	伊地知正光, 斎藤 覚, 西田 淳, 平田 仁			
平成14・15年度	担当理事	長野 昭	アドバイザー	藤 哲	
	委員長	仲尾 保志			
	委員	伊地知正光, 今枝 敏彦, 斎藤 覚, 西田 淳, 平田 仁			
平成16年度	担当理事	藤 哲	アドバイザー	伊地知正光	
	委員長	西田 淳			
	委員	今枝 敏彦, 内山 茂晴, 沖永 修二, 楠瀬 浩一, 和田 卓郎			
平成17年度	担当理事	藤 哲			
	委員長	今枝 敏彦			
	委員	内山 茂晴, 沖永 修二, 楠瀬 浩一, 澤泉 卓哉, 和田 卓郎			

参考文献

- 1) T Imaeda, S Toh, et al.: Validation of the Japanese Society for Surgery of the Hand Version of the Disability of the Arm, Shoulder, and Hand (DASH-JSSH) Questionnaire. J Orthop Sci, 2005;10:353-59.
- 2) T Imaeda, S Toh, et al.: Validation of the Japanese Society for Surgery of the Hand Version of the Quick Disability of the Arm, Shoulder, and Hand (QuickDASH-JSSH) Questionnaire. J Orthop Sci, 2006;11:(in press).
- 3) 日手会機能評価委員会：手根管症候群質問表日手会版の妥当性の検討. 日手会誌, 2006;23:S39.
- 4) 日手会機能評価委員会：手根管症候群におけるQOL(CTSI, DASH, SF-36)の理学検査の反応性の比較. 日手会誌, 2006;23:S15.

改訂版(第3版)序

手の機能評価表は平成5年に発行された。その後、平成6年度機能評価委員会から改訂作業を始めた。改訂の目標は簡略化すること、前委員会で討議しきれなかった母指対立機能評価や手関節機能評価を追加すること、整理、編集の未完成部を整えることであった。各委員で項目を分担し、委員会で討論を重ねた。簡略化の方向として、共通書式を充実し、疾患、外傷の各項目での表や図を減らす方針をとった。最終的には簡略化できた部分があるが、共通書式を多用せざるを得ない部分ではかえって大変かもしれない。現段階では機能評価表は評価基準が確立されたもの、参考となる評価基準を含むもの、症例記録表にとどまるもの(目次解説参照)が混在している。従ってすべての項目で成績評価ができるところまで成熟していない。今回幾つかの項目では多用されている評価基準を参考として挙げ、成績評価がしやすいように努めたが、より十分なものにするには次の委員会での成績評価基準の検討が必要である。妥当な成績評価基準が定まればより簡略化し、明快な表となろう。

成績評価法や解説は各項目別に配置した。この方が実際に使うには便利と考えたからである。手関節機能評価表には一項目設けた。母指対立機能評価は関係する外傷、疾患が多いので共通書式で行うこととした。また共通書式、腕神経叢損傷では評価がしやすいよう図を追加した。

細かい点では氏名、カルテNo.などの記入様式の統一に努め、図の大半は新たに書いて、より使いやすいものに入れ換えた。また評価表を見やすくし、評価表の枚数を少なくするためサイズを社会標準のA4版とした。

機能評価表の理想にはまだ多くの道程がある状態と考えるが、会員諸氏の御意見を今後とも集約して、さらにより機能評価表に仕上げていきたい。

最後にこの改訂版作成にたずさわっていただいた機能評価委員会の諸先生を紹介し(敬称略)、その労をねぎらいたい。

平成6年度～平成8年度委員

担当理事 石井 清一(平成6年度)
平澤 泰介(平成7,8年度)
顧問 平澤 泰介(平成6年度)
委員 薄井 正道, 藤 哲, 富田 泰次
中村 蓼吾(委員長), 浜田 良機
松崎 昭夫

平成9年度委員

担当理事 平澤 泰介
委員 石田 治, 薄井 正道(委員長)
勝見 泰和, 富田 泰次
浜田 良機, 村上 恒二

1998年4月6日

日本手の外科学会機能評価委員会

前委員長 中村 蓼吾

現委員長 薄井 正道

日本手の外科学会 機能評価委員会歴代委員名簿

昭和 57～63 年度	委員長 田島 達也 委員 生田 義和, 石井 清一, 鈴木 勝己, 二ノ宮節夫
平成元年度	委員長 生田 義和 委員 石井 清一, 児島 忠雄, 斎藤 英彦, 室田 景久
平成 2 年度	委員長 生田 義和 委員 伊知地正光, 児島 忠雄, 斎藤 英彦, 平澤 泰介, 室田 景久
平成 3～5 年度	委員長 平澤 泰介 委員 生田 義和, 伊知地正光, 木野 義武, 斎藤 英彦, 室田 景久
平成 6 年度	担当理事 石井 清一 顧問 平澤 泰介 委員長 中村 蓼吾 委員 薄井 正道, 藤 哲, 富田 泰次, 浜田 良機, 松崎 昭夫
平成 7・8 年度	担当理事 平澤 泰介 委員長 中村 蓼吾 委員 薄井 正道, 藤 哲, 富田 泰次, 浜田 良機, 松崎 昭夫
平成 9 年度	担当理事 平澤 泰介 委員長 薄井 正道 委員 石田 治, 勝見 泰和, 富田 泰次, 浜田 良機, 村上 恒二
平成 10 年度	担当理事 中村 蓼吾 顧問 平澤 泰介 委員長 藤 哲 委員 石田 治, 勝見 泰和, 中土 幸男, 村上 恒二, 柳原 泰
平成 11 年度	担当理事 中村 蓼吾 委員長 藤 哲 委員 石田 治, 勝見 泰和, 中土 幸男, 村上 恒二, 柳原 泰
平成 12 年度	担当理事 長野 昭 委員長 藤 哲 委員 仲尾 保志, 中土 幸男, 平田 仁, 柳原 泰
平成 13 年度	担当理事 長野 昭 アドバイザー 藤 哲 委員長 仲尾 保志 委員 伊地知正光, 斎藤 覚, 西田 淳, 平田 仁
平成 14・15 年度	担当理事 長野 昭 アドバイザー 藤 哲 委員長 仲尾 保志 委員 伊地知正光, 今枝 敏彦, 斎藤 覚, 西田 淳, 平田 仁
平成 16 年度	担当理事 藤 哲 アドバイザー 伊地知正光 委員長 西田 淳 委員 今枝 敏彦, 内山 茂晴, 冲永 修二, 楠瀬 浩一, 和田 卓郎
平成 17 年度	担当理事 藤 哲 委員長 今枝 敏彦 委員 内山 茂晴, 冲永 修二, 楠瀬 浩一, 澤泉 卓哉, 和田 卓郎